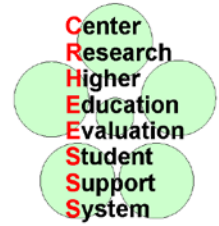


# 週刊センターニュース No.281



第281号(2009年10月19日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 〇〇〇 TurningPoint バージョンアップについて 〇〇〇

本学で導入されているクリッカー(携帯端末を利用した学生応答・理解度把握システム)であるキーパッド・ジャパン社の TurningPoint が先日バージョンアップされた。また、ResponseWare という新製品が用意されたという。

キーパッド社のクリッカーは世界的にも大きなシェアを持ち、現状のままだでも十分使いやすく、また可能性を秘めたものであるが、どのような改良を受けたのだろうか? また、新発表の ResponseWare とはどのような製品だろうか? この点について先日、同社の山川達也氏による発表があった(第247回 大学教育開発・支援センター 共同学習会)ため、この点について報告したい。

はじめに、今回の TurningPoint バージョンアップは、ソフトウェアのみのアップデートであり、これによって何らかの金銭的負担が強いられるものではないということを強調しておきたい。すなわち、無償のマイナーアップデートと同等のものと位置づけられているようだ。従来のクリッカーを既に所有している大学であれば、ソフトウェアのアップデート以外に行くことはない。既存のクリッカーが使えなくなるということもない。

しかしながら、このアップデートは、クリッカーの汎用性を大きく高める意味を持つものといえる。目玉は、従来使い勝手・機能ともに不満が多かった TurningPoint Anywhere の大幅な改良である。

クリッカーを既に利用したことのある方ならおわかりのことと思うが、従来のクリッカーは、パワーポイントのスライドの一枚として利用することを前提としたものだった。授業で日常的にパワーポイントを利用している教員ならば抵抗は少ないかもしれないが、そうでない場合、そこにハードルを感じる教員がいたかもしれない。

しかし、今回の TurningPoint Anywhere は、パワーポイントを使わずに独立で動くアプリケーションとしてあり、インターフェイスもシンプルでわかりやすいものだ。さらに、(筆者は個人的にはこちらに好印象をうけたのだが)動作が非常に軽く、安定している。

最も簡単に利用するのであれば、ソフト上の「開始」ボタンを押すだけでよい。そうすると、学生がクリッカーで押した回答が自動的に集計され、グラフ化される。これくらいシンプルである。もちろん、テキストを入れるなど工夫をすることもできる。

また、学生が答えた回答が、リアルタイムでグラフに反映されるという機能が追加された。学生の回答の「迷い」をとらえるには有効な機能であろう。筆者としては、その学生の「迷い」の軌跡もログ化して記録してくれる機能があると良いと考えたが、現在のところその機能は実装されていない。

クリッカーが、日本でまだ普及していない理由はいくつもあるだろうが、操作のとっつきにくさが理由の一つにはあろう。その意味で、このバージョンアップは、クリッカーの裾野を広げる一つのきっかけになりうると感じた。

しかし、実は筆者がより興味を抱いたのは、新製品という ResponseWare のほうだ。これはどういう製品かという、実は説明しにくい。クリッカーのようなひとつの「もの」としては存在していな

いからだ。むしろ、新しい「サービス」と言っていだろう。携帯電話や iPhone などの携帯端末、あるいは携帯型パソコンなど、ネットワークに接続するものすべてを「クリッカー」として利用することができるようになる仕組みである。すなわち、学生にクリッカーを配って回らずとも、学生が持つ携帯電話やパソコンを利用して、双方向の応答を可能にするシステムである。この汎用性の高さは魅力である。もちろん、携帯電話の通信料の問題など、現実的にはいくつもの問題があるのだが。

さて、しかし、実はこうしたサービスは、あくまでも日本においては既にいくつかの大学で提供されている。代表的なものが、阪南大学の「p-HInT」だ。阪南大学では主に Nintendo DS を利用して、大講義での双方向応答を実現している。これもまた、インターネットに接続可能なデバイスならば何でも利用できるものとしてある。そして実際、システムのおおまかな概念図は ResponseWare とほぼ変わらない、と筆者は推測している。どちらも、インターネット上のサーバーを介して、学生側のデータを集約した上で教員にデータを送信する仕組みを使っている。そうした状況の中において、ResponseWare の特徴は、従来のクリッカーとも混在して使えるというところに求められそうだ。

近い将来において、こうした学生応答デバイスがどういった勢力図を持っていくのか予想を立てるのは困難だが、ここ数年くらいのスパンにおいて、同様のデバイスが競って乱立するのは確実と思われる。それがどのように大学教育に浸透していくのか見極めていきたいと考えている。

(文責：FD・ICT 教育推進室 竹本 寛秋)

## ○●○ 新着図書紹介 ○●○

大学教育開発・支援センター図書室（総合教育1号館6階613号室）に、授業技術・方法、大学経営・人事に関する図書が入りました。貸出・閲覧が可能ですので、是非ご活用下さい。

### 授業技術・方法

- ・ 自己調整学習の指導－学習スキルと自己効力感を高める、バリー・J・ジーマン、セバスチャン・ボナー、ロバート・コーバック著、塚野州一他訳、北大路書房、2008年
- ・ 学ぶ意欲とスキルを育てる－いま求められる学力向上策、市川伸一、小学館、2004年
- ・ 学習方略の心理学－賢い学習者の育て方、辰野千尋、図書文化、1997年

### 大学経営・人事

- ・ 大学人事研究Ⅱ－変貌する大学人事：教員評価の実状と経営人材の育成、大学行政管理学会編、学校経営研究会、2009年
- ・ 大学経営の事例集－大学経営を成功に導くために（(私学経営情報第27号)、日本私立学校振興・共催事業団、2009年
- ・ 私立大学の社会的責任に関する研究報告、私立大学社会的責任研究会、2007年

## ○●○ FD・SD 企画の情報提供のお願い ○●○

当センターでは、学内はもちろん学外で開催されます FD・SD に関するシンポジウム・セミナー等についても情報収集を行っておりますので、関連する情報提供をお願いします。学内ポータル内の「FD カレンダー」（学内開催、学外開催、センター教員担当の3種類。本年度12月まで参照可能。随時更新）「SD カレンダー」（学内開催、学外開催の2種類。本年度12月まで参照可能）に掲載させていただきます。当センター宛（[info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp](mailto:info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp)）にご連絡頂きますようお願いいたします。

各カレンダーは、ポータルでログイン後、時間割の下にある「その他情報」-[時間割] をクリックすると、2つめの項目に【FD・SD】があり、その中の「アカンサス FD」「アカンサス SD」のそれぞれにカレンダーを所収しています。是非ご活用下さい。